My Dream is
to become a Teacher.

茨城県の学校の先生に
教職を目指す大学生がインタビュー

「教員の魅力とは」学校現場において、創意にあふれ
特色ある指導を実践している先生方に伺いました。

茨城県の先生になろう

IN THE BEGINNING ―― はじめに

このパンフレットは、茨城県教育委員会の「教員の魅力発信プロジェクト」の一環として、教員を志望している大学生が、茨城県内の先生方を取材し、自らの視点で魅力を発見し、同年代の若者に発信することを目的として作成しました。取材した先生方は、令和５年度優秀教職員（ティーチャー オブ ティーチャーズ４名、優秀教職員１名）の方々です。

学校の先生という職業に興味がある皆さん、このパンフレットを通して、ぜひ先生の楽しさ、やりがいを感じてください。

私たちと同じ志をもつ皆さんに、先生っていいな、なりたいなと思っていただければ幸いです。

※優秀教職員表彰制度については右記のＱＲコードから
茨城県教育委員会ＨＰをご参照ください。

TABLE OF CONTENTS

目次

ティーチャー オブ ティーチャーズ

常陸太田市立水府小学校
小・中一貫教育の強みを生かしたカリキュラム・マネジメントの確立
曽根 勉　教諭　04

茨城町立大戸小学校
理科教育、ICT教育を中心に県の教育力の向上に貢献
中島 潤一　教諭　06

行方市立玉造中学校
教科等横断的な学習指導の工夫改善とキャリア教育の推進
浅野 孝志　教諭　08

茨城県立竜ヶ崎第二高等学校
研修や授業研究等に取り組み、成果を発信し、教員の指導力向上に寄与
若林 美穂　指導教諭　10

優秀教職員

茨城県立水戸特別支援学校
自立活動の指導の充実、本県及び自校の特別支援教育の充実に寄与
八柳 千穂　教諭　12

取材を通して　14

茨城県の求める教師像　15

曽根勉

常陸太田市立水府小学校

教諭

Teacher of teachers

Q and A

Q これまでの教育実践、取り組みについて教えてください

A 今年度で教員生活の22年目が終わるのですが、これまで、自分の専門が社会科なので主に社会科に関する実践研究を進めてきました。

現在勤務している学校は、2つの小学校と1つの中学校が統合し、1つの建物に小学生と中学生が一緒に生活している小中一貫教育校です。小学校・中学校を合わせた9年間を充実したものにするため、自分の役割を考えて仕事に取り組んでいます。

Q 印象に残っていることは何ですか

A 沢山ありますが、やはり、何か小さいことの積み重ねかなと思います。昨日できなかったことができるようになっている、という小さな積み重ねが成長につながるのかな…と。大きな出来事もあるけれど、大切なのは毎日の積み重ねです。子供たちとの関わりや成長は、どれも印象に残っています 。

Q 教員の魅力ややりがい、楽しさについて教えてください

A 授業づくりだと思います。私は大学時代に NPO法人を主宰する大学の先生と活動をしてきました。その担当の先生に「授業はデザインだ。難しいかもしれないけれど、その子に応じた授業をデザイナーだと思って作る。教師は、授業をデザインするんだよ。」と教わったことがあり、今の私の教師としての働き方の基盤となっています。うまくいかなかった場合には、次どうするかを考えます。その子の求めていたものにピタッとはまると、子供の表情が輝いているなと感じます。

成長によって子供の求めているものは変わってくることが多いので、4月と現在の違いを感じることが多々あります。デザインするという話につながりますが、「子供たちが自分の考えを表現するなら、この学年ならこのやり方かな？」といったことを考えることにやりがいを感じます。

Q 教員を目指す若者へのメッセージをお願いします

A 教員は、自分で考えて自分でやれることがとても多くあります。授業を任せられれば自分で考えデザインできるし、学級担任をするならば関わり方を自分で考えることができます。つらいこともあるけれど、リターンも自分でもらえる。毎日違うことが起きていて、同じ日が無いので、それも楽しいところかなと思います。

皆さんには、ぜひ、いろいろな経験をしてほしいと思います。私もNPO法人と関わり多くの経験をさせていただきました。例えば、学校にパソコン室ができた時には、学生ボランティアとして先生方をサポートしたりパソコンを使った授業を提案したり、外国に行った時は、日本語を教えたりしました。それが教師の仕事と結びついたかは分かりませんが、自分の力になりましたし、いい経験だったなと思います 。

中島潤一教諭

茨城町立大戸小学校

Teacher of teachers

Q and A

Q これまでの教育実践、取り組みについて教えてください

A GIGAスクール構想の推進による一人一台タブレットや電子機器の導入に伴い、「誰一人取り残さない学習」を目指して取り組んでいます。子供たちは、苦手な教科のときは指名されないように下を向くなど消極的になりがちですが、タブレットや電子黒板等を用いて各々の考えを可視化することで、一人一人が自分の考えを軸に学習を進めることが可能になると考えました。実際に、自信がなく手を挙げられない子にタブレットを通じて自分の考えを図式化してもらったところ、自分と同じ考えの人がいることに気付いてもらえたということがありました。結果、その子は自信をもって授業に臨めるようになりました。

また、三者面談などの際、タブレットを使って写真や動画等で子供たちの様子を保護者の方にお伝えすると「うちの子が！」と、非常に喜んでいただいたことも印象的でした。

Q タブレットなどを活用したICT教育は画期的なのか、先生の目線からの実情を教えてください

A ICT機器を導入したからと言って学習が大きく変わることはないです。私はあくまで「タブレットも文房具と変わらない」というスタンスです。まず、苦手な子と得意な子の差に関しては、特に深刻には感じていません。現在の勤務校は小規模校ということもあってか、子供たち同士に垣根がなく、教えあう雰囲気が自ずと形成されてきています。

さらに、本校の場合は茨城町が学習で使用するアプリケーションやWi-Fi環境等の相談に乗ってくれたため、比較的スムーズに導入することができました。

ただし、誤操作や情報の扱い方など、教員も子供も含めた全員が注意しなければならない点もたくさんあるので、研修を通じて全員がデジタル・シティズンシップを向上させていくことが重要であると感じています。

Q 教員志望の若者は減少傾向にありますが、魅力ややりがい、楽しさについて教えてください

A 私自身、教員への憧れが最初からあったわけではありませんでした。小学生の頃、私はもともと音楽が苦手なうえに、先生の厳しい授業も苦手でした。授業で毎回指される度に、「早く終わってほしい。この先生と離れたい」と思っていました。しかし、進級後、あの音楽の先生の厳しさと優しさに気が付き、会えないことが急に淋しく感じられるようになってきました。この頃から「こんな職業は他にない」と思い始め、興味が湧いてきました。

また、高校入試では、希望の高校に落ちてしまい、途方に暮れていたところ、「中島は教員になりたいのだからこっちの高校が良いと思う」と、わざわざ電話で指導してくださった先生がいて。あの時のおかげで今があるとしみじみ思います。

大学入試の際も先生にたくさんお世話になりましたね。頑張って勉強していたものの、なかなか成績が上がらず悩んでいた時、職員室に呼ばれ、「怒られるのかな 」と身構える私に先生がかけてくれた言葉は「もっと教師を使え！」という叱咤激励でした。私があっけにとられていると、他の先生も「俺もついているから」と口々に言いながら、肩を優しく叩いてくれました。思わず職員室で号泣してしまいました（笑）。こんなに将来を考えてくれていることに、ひたすら感謝の気持ちが溢れてきましたし、私もこんな風に、もがいている児童生徒の後押しをしてあげたいなと思うようになりました。

Q 教員を目指す若者へのメッセージをお願いします

A 教員とは子供の人生に影響を与える存在であると思っています。それ故責任も大きいですが、それぞれの取組や良さを日々認め合える職業は他にないと思います。また、年齢もバックグラウンドも異なる様々な人と出会ったり関わったりできる機会に恵まれているのも、教員ならではだと思っています。そんな日々を通じて、子供たちの成長だけでなく自分自身もアップデートしていけます。この充実感を、ぜひ皆さんにも体験していただきたいです。

浅野孝志

行方市立玉造中学校

教諭

Teacher of teachers

Q and A

Q これまでの教育実践、取り組みについて教えてください

A 子供たちは数学に対して非常に苦手意識をもっています。そこで、子供たちに数学を好きになってもらいたいという思いで数学の研究に頑張って取り組んできました。

また、受け持った生徒が中学校を卒業してから来校した際に、よく耳にするのが「将来どうしたらいいか分からない」という相談です。私は、中学校の3年間は高校に進学するための学力をつけるだけではなく、中学生の時に自分を見つめ直し、実際にどんな大人になりたいかを意識できるよう、自分の生き方を考えるキャリア教育の視点で実践に取り組んできました。

Q 数学を好きになってもらう工夫や、授業でのキャリア教育の取り組みを教えてください

A まずは、授業の最初にその時間の目標を明確に生徒に伝えることにしました。あとは「板書をとる」ことに意識が集中し、受け身の授業にならないよう、適切なタイミングで声かけをするようにしています。授業中はヒントを与えて子供たち同士で交流し、話し合ってもらう時間を多く設けました。また、しっかりと生徒を評価することを心がけるとともに、姿、ノート、テストなどを見て、どんなところでつまずいているのか、生徒の困り感を理解して繰り返し指導するようにしています。さらに、どの生徒も同じレベルで学習が進めるように、個別指導も大切にしています。

また、キャリア教育についてですが、2年生の職場体験の事前指導で電話のかけ方や、終了後の手紙の書き方などを学びますが、スパッと終わってしまうことが結構あると思います。そこで、国語科の先生と協力して「手紙を書こう」という単元を入れ替え、職場体験の直前に一緒に授業を行いました。そうすることによって、その教科で学習したことが他の教科でも生かされました。他にも美術の授業で名刺づくりを行うなど、職場体験を行う上でどんな力が必要か、その力はどの教科のどの単元で生かせるのかを見つけて当てはめました。そして、実際に行動に起こすことによって、教科とキャリア教育の関連付けを行うようにしました。

Q 教員の魅力ややりがい、楽しさについて教えてください

A 生徒の人生に関われるところが一番楽しいです。だからこそ、今の社会を踏まえながらいろいろなことを子供たちに伝えなければいけないと思います。自分をアップデートしていかないと置いていかれてしまうので、私は常に学び続ける気持ちを持っています。

子供たちの成長を保護者の方々と一緒に味わえることも魅力の一つです。卒業した後に保護者の方から「自分の子はあんなに勉強が嫌いだったのに、今は夢をもって一生懸命勉強しています」「先生から教われたことが嬉しかった」などの言葉をいただけたことが嬉しかったです。

Q 教員を目指す若者へのメッセージをお願いします

A とにかく自分が興味を持っていることを一生懸命やってほしいです。先生という立場で話をする際、やはり出てくる言葉などは今までの積み重ねや経験から出てくると思います。要は「やってみようね」などの表現一つ一つは経験してきたことや感じたことが生きてくるので、それが何もないと困ってしまいます。何でもいいので自分が今興味のあること、関心のあることを一生懸命やって、いろいろなスキルを身に付けてください。その経験が子供たちに何かを伝えるときのバックボーンになると思うので。

人前で話すことに不安な方もいると思います。実は私も人前で話すのが凄く恥ずかしい、と思っていましたが…、慣れました。とにかく興味のあることに一生懸命取り組んでほしいです。

若林美穂

茨城県立竜ヶ崎第二高等学校

指導教諭

Teacher of teachers

Q and A

Q 教員生活の中で印象に残っていることを教えてください

A 生徒の成長や生徒の喜びを共有できたことが印象に残っています。家庭科には、被服や調理、保育など様々な技術検定があります。これらの技術検定合格に向けて、苦手なことでも諦めずに努力を重ねて最後までやり遂げた時に成長を感じます。辛いことがあっても乗り越える経験をしてほしいので、いろいろな経験の機会を設けることも大切だと思っています。

やるべきことをきちんと実践することも自信につながりますが、「努力しても出来ない、もう無理」という状況下で、もう一度頑張り「できた！」という経験の方が成長に繋がると思います。この、「できた」時の生徒は、嬉しさで何とも言えない表情を見せてくれます。その時が教員をしていて良かったと感じる時です。

Q 生徒と関わるうえで心がけていることはありますか

A 教員になった当初は経験も少なく、生徒への対応において思うように伝わらないことがあり、悩むこともありました。しかし、今思い返すと笑って振り返る出来事も少なくありません。日頃から、「生徒のため」を念頭においてモチベーションを上げて取り組んできました。

現在は担任をもってはいませんが、指導教諭として、また学年を担当する者として、ここで、この内容について声掛けをすると、生徒の成長につながるというタイミングを学年の先生方と共有するようにしています。高校生活は3年間しかないため、伝えられることはできる限り伝えたいと思っています。生徒の人生はこれからの方が長いため、いろいろな経験をしてほしいです。失敗しても、在学中ならば生徒に声掛けができます。生徒と共に私自身も成長していきたいと考えています。

Q 私は所属団体で探究活動のサポートをしています。竜ヶ崎二高の探究活動（総合的な探究の時間）について教えてください

A 本校の探究活動は、1年生で地域探究、2年生では修学旅行を含めた探究活動をしています。生徒へ探究活動といってもすぐに実践をするのは難しいと思うので、まずは調べ方や資料の読み取りなどの学習の流れの共有を進めています。特に家庭科では、課題研究の中で探究を代替しています。

課題研究（探究活動）の進度は、生徒の意見を聞きながら決めています。探究での声掛けは難しいですが、生徒に「どうしたらいいと思う」と聞くようにしています。そこで、生徒の意見が私が思っていた回答と違っていても、私自身が学ぶきっかけになり、自分の考えの幅が広がると考えます。「どのような答えも間違いではない」ということを示すことで、生徒の意欲や自信につながると考えます。

Q 教員を目指す若者へのメッセージをお願いします

A 今しかできないことをたくさん経験しておくことが大切だと思います。教員の仕事は「人」と関わる仕事です。たくさんの経験が生徒と話す引き出しの多さになり、きっかけになります。何が生徒との繋がりになるかは分かりません。だからこそ、今できることをたくさん楽しんでください。

生徒との信頼関係を深めるには、常にフラットでいることが大切かなと思います。教師も人間なので気持ちにムラがある時はあります。常にフラットに生徒に関わる事で生徒は話しかけやすくなり、心の安心を得るのだと思います。

教師の仕事は忙しいと思います。日々いろいろなことがあって、ルーティーンでは進めることができないことがたくさんあります。急に対応することや、新しい取り組みもあります。しかし、「忙しい」という事実をどう捉えるかで変わってくると思います。全ては「生徒のために」チームで対応すること、その時に自分がどんな思いで「今」に臨むかだと思います。ぜひ、今を楽しんでください。

八柳千穂

茨城県立水戸特別支援学校

教諭

Excellent teachers

Q and A

Q これまでの教育実践、取り組みについて教えてください

A 特別支援学校は個別の指導計画を作成しています。一人一人に対して目標を作成し評価していきますが、目標はその児童生徒の実態に応じて変わりますので、特に若手の先生は指導計画を立てるときの不安感や自信の無さを感じることがあります。そのため、複数の教員で話し合って目標を作成する仕組みを作ることで、お互いの意見を出し合い、目標や指導の手立てを相談し合えるようにしています。

もう一つは、ICT機器の活用です。障害がある児童生徒の力を引き出すICTとは何だろうと試行錯誤しながら、いろいろなものを取り入れて児童生徒や先生方に伝えています。また、月に1回、保護者や地域の方々をお招きし、学校内で ICT体験会を開催しています。

Q 教員の魅力ややりがい、楽しさを教えてください

A 私は子供たちの成長の瞬間に出会えることが教員の魅力だと思います。 例えば、ICT機器の活用をした時、最初は教材に全然目線を向けてくれなかった児童がだんだん目線を向けて見てくれるようになったり、目標物に手を伸ばしてくれなかった児童が手を伸ばして触ってくれたり等、ちょっと鳥肌が立つような瞬間に出会えるのが私にとってのやりがいです。

Q 私は養護教諭を目指しているため、養護教諭との連携について教えてください

A 特別支援学校では養護教諭との連携は不可欠です。特別支援学校の子供たちの体調の変化は、繊細で毎日違います。担任がちょっとした変化に気付き保健室を訪ねて相談すると、養護教諭が親身に相談に乗ってくれるのでとても心強いです。

また、体調の変化から救急車を呼ぶ必要がある時もあります。そういうときも落ち着いて私たちと接してくださるので養護教諭の存在はとても大きいと思います。

Q 教員を目指す若者へのメッセージをお願いします

A 教員に関する深刻なニュースや話題が多く、時には私自身も教員であることに悩むこともあります。そういう時は、なぜ教員になりたかったかを振り返り、日々原点を忘れないようにしています。

何より、私にとっては小さなことを喜べることが教員生活での幸せかなと思います。子供たちが試行錯誤しながら頑張る姿を見ることが好きです。そういう姿を見ることで幸せを感じ、「今日も一日いい日だった」という毎日が積みあがり、それが楽しく学校に来られる力になります。教員のやりがいを大切にしながら、子供たちや保護者、同僚へ丁寧に誠実に接していれば、いざというときに周囲の方が助けてくれると思います。

Comments From university students.

石崎　菜々美
茨城大学/人文社会科学部/現代社会学科/2年

いつもメディアで取り上げられているのは、教員が大変という話題が多いと思いますが、今回の取材で教員の魅力や楽しさを発見することが出来ました。児童生徒の成長に関わるというとても責任のある仕事だけれど、その分大きなものがリターンとして返ってくる教員という仕事がとても魅力的に感じました。

檜山　さつき
茨城大学/教育学部/養護教諭養成課程/2年

取材をさせていただいて、子供たちが自分から考えて動き、成長できるようにするために、子供たちと関わりながらどうしたら良いのかを日々模索し続けるということが、教員としてとても大事なことだと感じました。

根來　春花
茨城大学/教育学部/美術選修/2年

インタビューさせていただき、「教員として取り組む姿勢」を大切にしていきたいと思いました。キャリア教育の視点から、どんな力を子供たちに身に付けてほしいのかしっかりと知識に基づいて考え、いつでも子供たちと関わろうとする姿勢を知ることが出来て、私もこんな教員になりたいと思うことが出来ました。今後も学び続ける教員を目指して頑張っていきたいと思います。

山口　このみ
茨城大学/教育学部/養護教諭養成課程/2年

インタビューを通して、生徒との心と心の距離や人間味あふれる関わりを大事にしていることを強く感じました。生徒のことを常に考え、一人一人に真摯に向き合う先生の姿勢に感銘を受け、これからも沢山のことを学び、経験していきたいと思います。

大内　れな
茨城大学/教育学部/美術選修/2年

子供たちに将来どんな大人になりたいのか夢を持たせ、その夢を叶えるには、キャリア教育などで子供たち自身が自分を見つめ、授業で学んだことを社会で活かす実感があることが大切だと感じました。そのためにも、子供たちと一生懸命向き合うことのできる教員になりたいと思いました。

茨城県の求める教師像

01	教育者として資質能力に優れた、人間性豊かな教師
02	使命感に燃え、やる気と情熱をもって教育にあたることができる活力に満ちた教師
03	広い教養を身に付け、子どもとともに積極的に教育活動のできる指導力のある教師
04	子どもが好きで、子どもとともに考え、子どもの気持ちを理解出来る教師
05	心身ともに健康で、明るく積極的な教師

先生の魅力

現役時代から老後まで安定的な収入が得られる

終身雇用だから長期的に自己研鑽に励める

働き方改革が進行中！

子育て支援、福利厚生が充実している

生涯収入

（85歳まで、令和５年11月時点の試算）
茨城県で平均的に昇任し60歳時点で教諭である場合
・小中教員　約３億２７００万円
・高校教員　約３億３８００万円
45歳年収　約700万円
61歳～65歳年収　約520万円
退職金　約2200万円
年金（年額）　約220万円

※1000人以上の企業（男性）の生涯収入
平均　約３億3600万円
民間企業（男性・女性）の生涯収入
平均　約２億3500万円

福利厚生

■休暇・休業制度
・年次休暇：年間20日（新規採用者15日）
１時間単位での取得可
翌年繰越可で最大40日
・産前産後休暇：産前・産後　各８週間
・育児休業　　：男女とも最大３年間

■新規採用教職員に10,000円を給付

■ワンストップ相談窓口を開設
・新規採用から３年目までの教員を対象
・匿名による電話・メール相談可

発行元／茨城県教育委員会　編集・制作／特定非営利活動法人E-innovation